

7 8 巴塚・葵塚 ともえづか・あおいづか

巴、葵は共に義仲の愛妾であり、勇敢な武将でもあった。葵は砺波山で討死、巴は色白・美麗、また騎馬乗り・弓矢の達人で一騎当千の活躍をしたという。



9 中たるみの茶屋跡 なかたるみのちやあと

古来より北陸道を通る人が砺波平野を見渡し、中休みしたところ。

11 矢立 やたて

矢立山周辺は、義仲軍の最前線であった所。幅300m程の谷を隔てた塔の橋より平家軍が矢を放ち、ここに多くの矢が立ったことが「矢立山」の名の由来。

13 源氏ヶ峰 げんじがみね

倶利伽羅合戦において、平家軍陣地だったこの峰を義仲軍が占領したので、この名がつけられたという。

15 猿ヶ馬場 さるがば

倶利伽羅合戦のとき、平家の総大将平維盛が本陣を布いたところ。ブナ林の中に軍議石と本陣跡標柱、その奥には伝説の猿を祀った猿堂がある。

17 芭蕉塚 ばしょうづか

～義仲の寝覚めの山か月悲し～
松尾芭蕉が義仲に想いを馳せ、越前燧ヶ城で詠んだ句であるが、義仲の最も輝かしい勝利を納めた倶利伽羅古戦場のことを詠ったともいわれる。

19 源平供養塔 げんへいきゆうとう

高さ6.8mの五輪塔。合戦において犠牲となった源平両軍の兵士の霊を弔うため、昭和49年に建立され、毎年5月12日に法要が営まれている。

21 蟹谷次郎碑 かにたのじろうひ

義仲軍の先導を承った郷土の蟹谷次郎を讃え、源氏太鼓保存会が建立した。戦勝を祝って打ち鳴らした勝開太鼓が「源氏太鼓」として伝承された。

22 倶利伽羅不動寺 くりからぶどうじ

小矢部市と石川県津幡町との境界に位置する日本三大不動の一つ。奈良時代初期の養老2年(718年)に、中国から渡来したインドの高僧、善無畏三蔵が北陸路巡錫の際、砺波山山中に棲み村人や旅人に災いをかける魔物を倶利伽羅竜王を勧請して退治し、その不動明王を祀った。このことからこの地を倶利伽羅と呼ぶようになったという。

石川県河北郡津幡町倶利伽羅リ-2
TEL.076-288-1451

23 五社権現 ごしゃこんげん

手向神社の末社。不動明王は長楽寺(現不動寺)に祀られたので、四社となっている。

24 日笠宮神社 ひのめやしんじや

今井兼平が先遣隊保科党を遣わして、源氏の白旗30枚を打ち立てて、砺波山にいた平家軍に「源氏は大軍なり」と心胆寒からしめた「日宮林」の一部。

10 峠(天池)茶屋跡 とうげの(あまいげ)ちやあと

昭和の初め頃まで茶屋のあったところ。

12 塔の橋 とうのはし

平家軍の最前線だったところ。矢立山の今井兼平軍に矢を放った場所。

14 砺波山の詞碑 となみやまのひ

儒学者木下順庵と加賀藩の学者富田景周の火牛の戦法をたたえた詞の碑。

16 ブナ原生林 ぶなげんせいりん

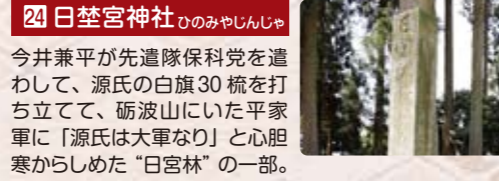
市指定天然記念物。高山植物である「ぶな」が250m程の低所に自生している珍しい林。

18 倶利伽羅小道 くりからこみち

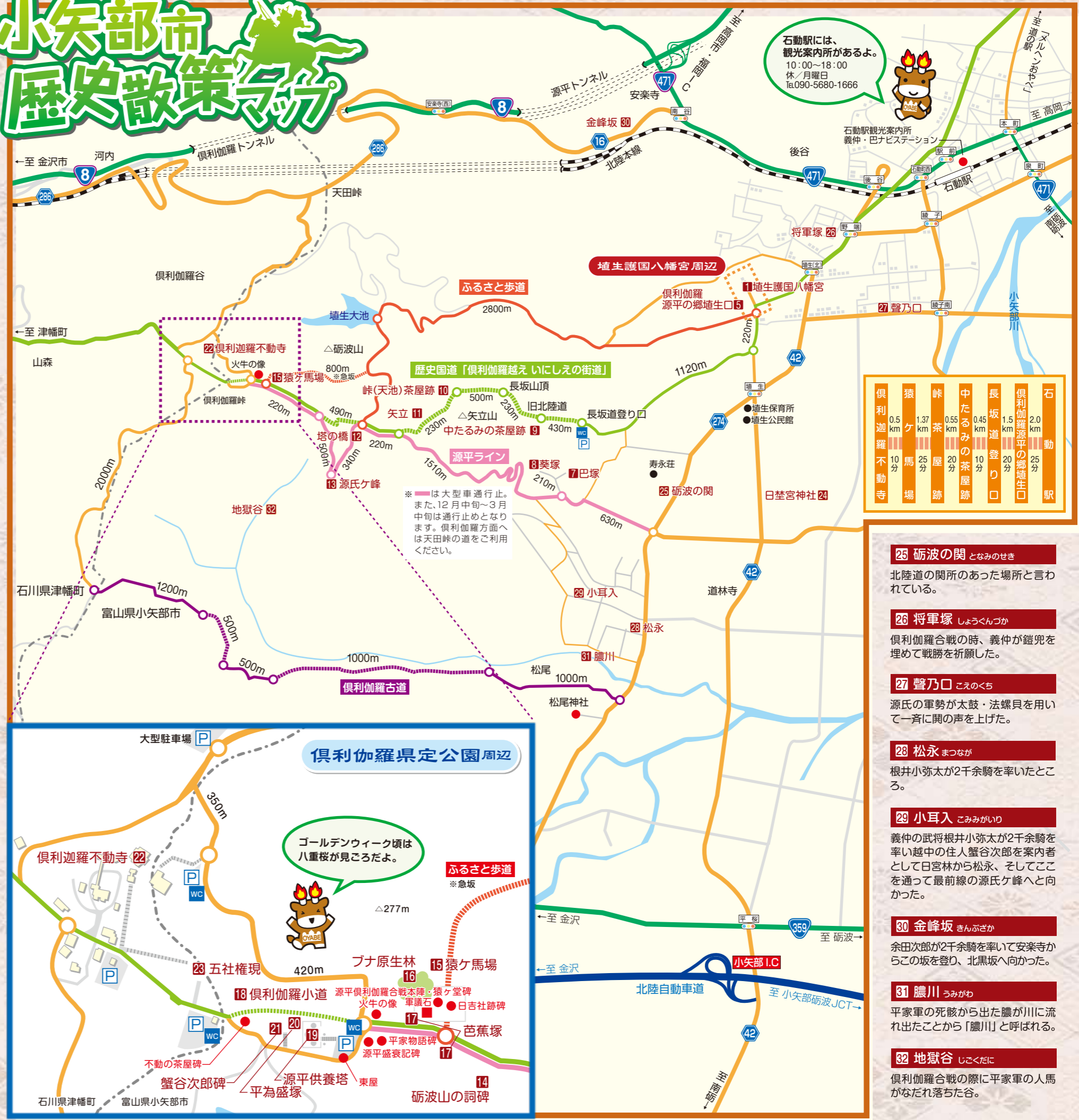
当時の面影を残す旧北陸道跡。

20 平為盛塚 たいらのためもりづか

平為盛は、総大将維盛の部将として戦ったが、義仲軍の夜襲により敗走。翌日夜明けるとともに手兵50騎を率いて義仲軍に逆襲して来たが、義仲の部将樋口兼光により首をはねられた。この勇敢な武将を弔って建てられたもの。



小矢部市 歴史散策マップ



石動駅には、観光案内所があるよ。
10:00~18:00
休/月曜日
TEL.090-5680-1666

25 砺波の関 となみのせき
北陸道の関所のあった場所と言われている。

26 將軍塚 しょうぐんづか
倶利伽羅合戦の時、義仲が鎧兜を埋めて戦勝を祈願した。

27 聲乃口 こえのくち
源氏の軍勢が太鼓・法螺貝を用いて一斉に関の声を上げた。

28 松永 まつなが
根井小弥太が2千余騎を率いたところ。

29 小耳入 こみみがいり
義仲の武将根井小弥太が2千余騎を率い越中の住人蟹谷次郎を案内者として日宮林から松永、そしてここを通って最前線の源氏ヶ峰へと向かった。

30 金峰坂 きんぶさか
余田次郎が2千余騎を率いて安楽寺からこの坂を登り、北黒坂へ向かった。

31 膿川 うみがわ
平家軍の死骸から出た膿が川に流れ出たことから「膿川」と呼ばれる。

32 地獄谷 じごくたに
倶利伽羅合戦の際に平家軍の人馬がなだれ落ちた谷。

